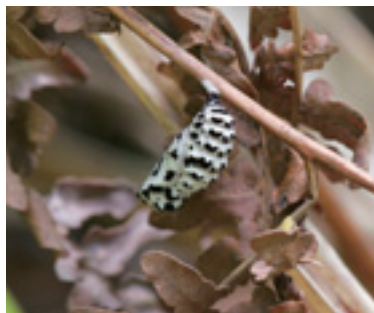
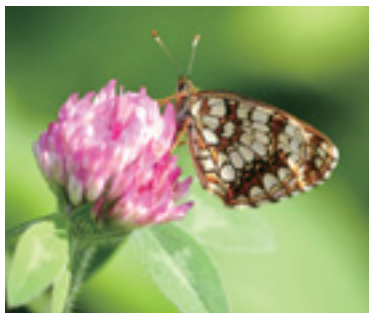




カノコソウと幼虫



オミナエシの葉に産み付けられた卵塊



上がオス 下がメス

ウスイロヒヨウモンモドキ

上齋原恩原高原の草原に生息するウスイロヒヨウモンモドキ（タテハチョウ科）は、「環境省レッドリスト」及び「岡山県レッドデータブック」において、「絶滅危惧Ⅰ類」に指定され、現在最も絶滅の恐れのある種の一つとなっており、自然公園法において、捕獲等が規制されている指定動物になっております。

これは、ウスイロヒヨウモンモドキの幼虫が摂食する、オミナエシとカノコソウがはえる、カヤ場が手入れされる事がなくなり、荒れてきているためです。

また、本種は希少性と収集価値の高さから鑑賞収集の対象になっており、一部マニアが頻繁に捕りに訪れるようになり絶滅が懸念されているのが現状です。

今後ウスイロヒヨウモンモドキを鏡野町恩原高原の草原のシンボルとして残していくため、「恩原高原ウスイロ委員会 上齋原支部」や地元住民により草原内の草刈等、保護活動を行っています。



集草作業の様子



草刈作業の様子

7月8日の観察会には、町内外より25名の参加がありました。

恩原高原ウスイロ委員会の個体数調査により、今シーズンの発生個体数は例年並みの約1000頭程度と推測されます。